

令和5年度 恵那北小学校だより

1月20日号

げんきたっ子



だれもが大切な一人

校長 市川 伸美

2024年となりました。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

元日の能登半島地震で犠牲になられた方にお悔やみを申し上げますとともに、被災された方が少しでも安心して生活できますよう、お祈り申し上げます。

毎日ニュース等で報道される内容を聞きながら、命の尊さを改めて感じた方も多かったことと思います。守りたい命を守れなかった気持ちは計り知れません。だからこそ、今ある命を自他ともに大切にしたいと実感します。

学校では、どの学年でも“命の学習”をしています。「プライベートゾーンを守る」「個性を尊重する」「おへその秘密」などを、発達段階に応じて学びます。その一環として、1月26日には4年生を対象に、助産師さんを講師として「産道体験」を行います。

誰もがお母さんのお腹から生まれ、愛情を受けて育ちました。両親は、弱々しく小さな我が子の命を大切に守り、幸せに育ててほしいと願いながら育てて来られたことでしょう。それでも、子供は成長する過程で、ときには親や兄弟とぶつかることがあります。「9歳の壁」といわれる時期もその一つです。個人差はありますが、「ギャングエイジ」などとも呼ばれるこの時期は、友達との時間を大切にするようになります。そして、他と比べて自信がもてなかったり、他人の意見に流されてしまったりする姿も見られます。そういう時期にこそ、自分が生まれてきたことに感謝し、同様にみんなが大切な一人であることを実感できる学習が必要であると考えています。

我が子に名前を付けたとき、皆さんはどんな思いを込められたでしょうか。持ち物に名前を書きながら、その思いを話していただき、かけがえのない子だと伝えることも、家庭でできる“命の学習”だと思います。



3年生 命の学習「おへそのひみつ」